

FRIENDSHIP at a TIME of NEED

コミュニティの再生と未来のために
カナダ — 東北復興プロジェクト

CANADA — TOHOKU



Orandajima House

Sant Juan Bautista

Yuriage Public Market

Donguri Anne Public Library

Jericho Support Centre

01 まえがき：
「カナダ―東北復興プロジェクト」

02 MESSAGE：
マッケンジー・クラグストン カナダ大使

04 東日本大震災 2011.3.11

06 プロジェクトの背景

10 PROJECT 01：
どんぐり・アンみんなの図書室

14 PROJECT 02：
ゆりあげ港朝市

18 INTERVIEW：
佐々木 一十郎 宮城県・名取市長

20 PROJECT 03：
オランダ島ハウス
船越小学校放課後児童クラブ

24 COLUMN：
宮城県慶長使節船ミュージアム

26 PROJECT 04：
障がい児者支援センター「エリコ」

30 あとがきにかえて



いざという時こそ友好を 「カナダ―東北復興プロジェクト」

Friendship: at a Time of Need

The Canada Tohoku Reconstruction Project

東北各地にかつてない規模の被害をもたらした2011年の東日本大震災。その復興支援のために、カナダ連邦政府、ブリティッシュ・コロンビア州政府およびアルバータ州政府が、カナダ林産業界並びにカナダウッドグループと共に立ち上げたのが「カナダ―東北復興プロジェクト」です。総額450万カナダドル（約3億3833万円／2012年1月レート換算）を拠出し、震災で失われた公共施設などを再建する事業を支援、被災地住民がこの自然災害を乗り越えて前進してゆく手助けをするものです。

プロジェクトの目的は以下の3点です。

1. 東日本大震災で甚大な被害を受け、支援を最も必要としている東北の地域社会に緊急の人道的支援を提供する。

2. カナダと日本の間に国際的なつながりを構築し発展させ、二国間の相互理解と友好関係を深める。
3. 持続可能な木質材料を中心に使用し、温もりと美しさを持った革新的なデザイン、そして優れた構造性能を持つ木造建築物を建設する。

プロジェクトの運営を担ったのはカナダウッド。震災の翌年2012年から東北各地に提案募集を行い、諸条件から事業案を選び、本書で紹介する「どんぐり・アンみんなの図書室」「ゆりあげ港朝市」「オランダ島ハウス」障がい児者支援センター「エリコ」の4つの施設が建設されました。これらはすでに活用され、地域に根づきつつあります。

Message

カナダ大使 マッケンジー・クラグストン *Ambassador of Canada to Japan* Mackenzie Clugston

コミュニティー再生のお手伝いが 大事だと考えました。 同じ木の文化を持つ国として。

A willingness to assist in the rebuilding of communities.
Our countries share a cultural appreciation for wood.



上：2015年2月、障がい児者支援センター「エリコ」の開所式に出席。4つのプロジェクト最後の建物の完成となった。

下2点：2013年1月、「どんぐり・アンみんなの図書室」の開館式にて。名取の復興を願って、佐々木一十郎市長とかたい握手を交わす。

— 2011年3月の東日本大震災で甚大な被害を受けた東北地方の再建に際して、カナダがどのような貢献をされたか、お話しいただけますか。

震災直後から、カナダ国内では企業・団体をはじめ人々の大きな支援の輪が広がりました。物資の提供や様々な支援活動、義捐金などを含めると、これまでに総額4000万カナダドルを超える寄付が集まっています。カナダ政府は、緊急を要する線量計や放射線検査機器、寒冷地用毛布2500枚などを速やかに提供し、放射能の専門家チームも派遣しました。その後、首相をはじめ、外務大臣や国際貿易大臣など多くの要人が被災地を訪れ、カナダ大使館も、カナダの食材を使った100人規模の炊き出しなどを実施しました。また、若い世代に希望を持ってもらおうと、被災した150人の若者を1カ月のカナダ語学研修に招待する「カナダ留学 ホープ・プロジェクト」を震災の年に立ち上げたことは、将来の人材を育てるという点でも有意義だったと思います。日本からの食料品輸入を再開した最初の国がカナダだったことも嬉しかったですね。

カナダ政府の大規模な支援事業として、(本誌で紹介する)4つの東北復興プロジェクトがあります。これはカナダ連邦政府とブリティッシュ・コロンビア州政府、アルバータ州政府、カナダ林産業界が資金面で支援して、被災した方々にとって本当に必要な、コミュニティーの再生に役立つ木の建物を造る、というプロジェクトです。

Many public facilities in the tsunami devastated areas were either completely gone or damaged beyond repair. We were delighted to be able to offer public buildings where people in these communities could gather. It is encouraging to hear the positive responses from local people in these communities who commented on the warmth,

— 4つのプロジェクトについては、印象に残ったことはありますか？

完成した建物を訪れたときに、現地の皆さんが「建物が木でできていて温かい。明るくてモダンなデザインでいい」と言ってくれたことですね。被災地では公共施設が津波で流されてしまっていたり、残っていてもダメージが大きかったりしたので、そういう地域に皆さんが集まる温かな場を提供でき、嬉しく思いました。カナダと同じで、日本も木を大切にす文化なので、このような木造の建物に安らぎを感じていただけたのだと思います。

— 復興支援の建物としては、木造はとても適していましたね。

そうですね、適していると思います。カナダも木の文化で、特に西海岸では大きな梁材を使った木造建築が多く見られます。木造校舎の大学もあり、たとえばブリティッシュ・コロンビア大学では18階建ての木造学生寮が建設中です。昔の開拓民も木の家に住んでいました。丸太小屋から少しずつ進化していったのです。カナダ人は木に親しみを感じ、生活に溶け込んでいます。木は温かみがあり、心が安らぐということでしょうか。

特に木材に関しては、カナダと日本は深いつながりがあります。日本への木材輸出には長い歴史があり、カナダから日本へ最初に輸出されたものも木材でした。1923年の関東大震災のときにも、カナダの

beauty and modern design of the Canada-Tohoku Reconstruction Project buildings. We share with Japan a cultural affinity for wood. By providing these wooden facilities I think people will feel a sense of peace and comfort.



西海岸から日本へ木材を送って、復興に役立ててもらったという歴史があります。以前、カナダの建築業者や木材輸出業者の人たちが来日した際の視察に同行したことがありますが、彼らに日本の伝統的な木造建築を見せると非常に喜んで、その建築に敬意を表し、美しい木の使い方に感銘を受けていました。カナダも日本も木を使います。そのスタイルに違いはありますが、カナダと日本は「木の文化」を持つという点で共通しているのです。

— 震災から5年が経過しましたが、今後も東北地方に関わる計画がありますか？

はい、このプロジェクトで完成した4つの建物を通じて、これからも支援を続けていきたいと思っています。昨年5月にはゆりあげで「カナダ留学フェア」を開催し、また「日加リーダーシップ基金：東北プロジェクト」と名付けた留学奨学金プログラムも行いました。これからも私たちは東北を応援し続けていくつもりです。

マッケンジー・クラグストン駐日カナダ大使。2012年11月着任。神戸生まれで日本語も堪能という親日家。両国の文化を熟知し、まさにカナダと日本の橋渡し役を担っている。



風化させない。これからのために
東日本大震災 2011.3.11

We must never forget the Great East Japan Earthquake,
March 11, 2011.

2011年3月11日14時46分（日本時間）。三陸沖の海底を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生しました。地震の規模はモーメントマグニチュード9.0という、（発生時点で）日本周辺における観測史上最大の地震となりました。そして、この地震により、場所によっては9.3m以上の巨大な津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部は壊滅的な被害に遭いました。2016年1月8日時点で、この震災による死者・行方不明者は18,457人。かつてない大震災は、多くの尊い命を奪い去り、5年の月日を経た現在も大きな傷跡を残しています。

いつくるかわからない災害。辛く悲しい経験でしたが、しっかりと記憶にとどめ、その教訓を生かして備えることも必要です。

2011年3月18日、宮城県名取市閉上（ゆりあげ）地区沿岸部。津波によりすべて流されてしまった。（写真提供／名取市）

Photo of Yuriage, Natori City, Miyagi, Japan one week after the Great East Japan Earthquake.

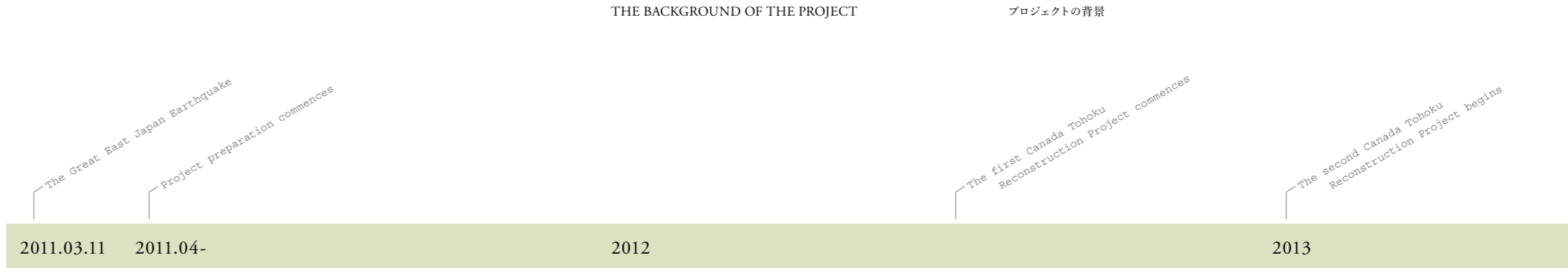
震災直後から被災地を視察。 長期にわたり地域再生の支援に取り組む — プロジェクトの背景

Project background: Canadians visit the disaster stricken area to help support the long term revitalization of communities.

2011年3月11日の震災後まもなく、カナダウッドは東北に足を運び、各地の被災状況を視察しました。現地の想像を絶する被害に全員が心を痛め、被災地のために何かできることはないだろうかと考えました。すぐに視察内容をカナダ本国に報告し、それをもとに本国でも何をすれば復興に役立つのか検討され、カナダ連邦政府、ブリティッシュ・コロンビア州政府、アルバータ州政府がカナダ林産業界と協力し、同年11月「カナダ—東北復興プロジェクト」が立ち上がりました。

首相や大臣らも被災地を訪れ、現地を見て歩き、人々の声に耳を傾け、「カナダとして何ができるのか」「本当

に人々が求めている支援とは何か」を話し合いました。このプロジェクトは震災直後の一時的な支援にとどまらず、地域を長期的にサポートしていくものにしたとの願いから、コミュニティの再生や地域の活性化につながるよう震災で失われた公共施設を再建するという結論に至りました。かくして4つの施設の建設プロジェクトが始動しました。カナダウッドは事業案の募集から選定をし、また施設の計画から建設、完成に至るまでを現地の方々と共に取り組みました。この共同作業を通じてカナダと日本の絆はより強固なものになり、施設が完成した後も友好関係は続いています。



Apr.



2011年4月、気仙沼の仮設住宅を訪れたカナダウッドスタッフ。東北各地を回った。

Nov.



11月、女川を訪れ、花を手向けたブリティッシュ・コロンビア州のスティーブ・トムソン林業担当大臣。



カナダ連邦政府大臣、ブリティッシュ・コロンビア州林業担当大臣、カナダ太平洋沿岸林産物協会理事長らによって「カナダ—東北復興プロジェクト」の概要が発表された。

2012

May



2012年5月、ブリティッシュ・コロンビア州のクリスティ・クラーク首相が名取を訪れ、関上地区を視察。

Nov.



11月、カナダからの派遣団が名取を視察に訪れた。

PROJECT 01



建設中の「どんぐり・アンみんなの図書室」。

[Donguri Anne Public Library » p.10](#)



11月、サン・ファン館を訪れたカナダからの派遣団。6月にカナダから到着し、公園内で自然乾燥されていたマスト材の前で。

[Sant Juan Bautista » p.24](#)

2013

Jan.



2013年1月、プロジェクト第一弾の「どんぐり・アン図書室」が完成。開館式にはカナダ大使も参列。

PROJECT 02



図書室の開所式と同日、「ゆりあげ港市」の地鎮祭が行われた。カナダ大使、名取市長らが参加しての鍬入れ。

[Yuriage Public Market » p.14](#)

May



5月、メイプル館が完成し、「ゆりあげ港市」が再開となった。待ちに待った再開に多くの人々が訪れた。

The third and fourth
Canada Tohoku Reconstruction
Projects begin

Canada Tohoku Reconstruction
Project is completed

2013

2014

2015

Nov.

PROJECT 04



2013年11月、4つめのプロジェクトに障がい児者支援センター「エリコ」が選ばれ、調印式が行われた。

Jericho Support Centre ▶ p.26



「サン・ファン・パウティスタ」の修繕工事を無事終え、11月、サン・ファン館が再開となった。カナダウッドのスタッフもカナダと東京から駆け付けた。

Mar.

PROJECT 03



2014年3月、建設中のオランダ島ハウスにて。左からショーン・ローラー/カナダウッド日本代表、オランダ人建築家のマーティン・ヴァン・ダーリンデン氏、施工を手がけた佐々木組の渡邊榮一氏。

Orandajima House ▶ p.20

Oct.



10月、建設中の障がい児者支援センター「エリコ」。特徴的な屋根が姿を見せている。

Feb.



2015年2月、障がい児者支援センター「エリコ」のオープニングセレモニー。4つのプロジェクトがすべて完成した。

コミュニティの再生と未来のために

PROJECT 01

Donguri Anne Public Library

PROJECT 02

Yuriage Public Market

PROJECT 03

Orandajima House

PROJECT 04

Jericho Support Centre

DONGURI ANNE PUBLIC LIBRARY

どんぐり・アンみんなの図書室

宮城県名取市増田



PROJECT 01 文化的な暮らしを支える

木のぬくもりに包まれた 人々の心のよりどころ

Supporting communities with the natural beauty and warmth of wood.

左頁：新図書館の一角には震災関連の書籍を集めたコーナーも。名取市役所内にあった震災記録室の資料もすべて引き継いで保管している。
上：柱、梁、屋根裏まで無垢のカナダ材があらわしになった図書館の館内。吹抜けのハイサイドライトから自然光が差し込む。



アンの家・グリーンゲイブルのような切妻屋根。ふんだんに木を用いた空間は、人々の交流の場ともなる。

The library's gabled roof is inspired by "Anne of Green Gables". Large open wooden spaces serve as a place for the community to come together.



上:先に建てられた「どんぐり子ども図書室」(左)に渡り廊下で連続する「どんぐり・アンみんなの図書室」(右)。内外をオープンに結ぶフレンドリーなつくりで、初めての人も入りやすい。



下2点:切妻屋根の深い軒下に設けられたテラス。木製のテーブルやベンチもカナダウッドから贈られたものだ。

DATA

どんぐり・アンみんなの図書室
所在地:宮城県名取市増田 1-7-37
tel. 022-382-5437
竣工:2013年1月
工法・規模:在来軸組構法・平屋
建築面積:238㎡
設計:(株)計画・環境建築
施工:山木工業(株)

【おもな使用木材】
構造:カナダツガ/SPF/OSB 外壁/外部デッキ:ウェスタンレッドシダー 内壁:ヘムロック・モールドディング 床:メイプル

木造の三角屋根が2つ並ぶ可愛らしい外観。コテージのようでもあり、保育園のようでもあり、オープンな木製のテラスを見ると、つい引き込まれて中を覗いてみたくなる気分させられます。

以前の名取市図書館は、同じ敷地内に建っていた旧名取市役所の建物を転用して運営されていました。築50年を越えて老朽化が進み、そろそろ新しい図書館の建設をという話が出ていた矢先、震災に見舞われました。内陸部であったため津波の被害は受けませんでしたが、壁は崩落し、何万冊もの本が床に投げ出されて、足を踏み入れることもできない状態になってしまいました。

「震災直後はどこも大変な状況でしたが、不自由な暮らしが続く中で、図書館を待っている方はたくさんいらしたので、なんとか早く再開したかったのです」と当時を振り返る館長の柴崎悦子さん。本の重みで建物が倒壊する危険もあったので、全国から駆けつけたボランティアの手を借りて1ヶ月で建物内の本の片付けを済ませました。

5月には移動図書館用の車や車庫を使って貸し出しを再開。寒くなる10月にはプレハブの建物が建てられ、12月には日本ユニセフ協会からの資金援助で「どんぐり子ども図書室」が完成しました。「何はとも

あれ、まずは子どもたちに笑顔を届けたかった」と柴崎さん。次は大人の図書館をという話になった時に、幸いにも「カナダー東北復興プロジェクト」からの支援が決定されました。

新図書館の計画は名前をつけることからスタート。「カナダといえば真っ先に思い浮かぶのは『赤毛のアン』でした。先に完成した『どんぐり子ども図書室』は、山火事で山が焼けても力強く芽を吹いて山を再生させるどんぐりのたくましさにあやかって名付けたもの。それで『どんぐり』と『アン』で『どんぐり・アンみんなの図書室』にしました」。

設計に際しても、アンの家・グリーンゲイブルをイメージして、床、壁、柱梁、屋根裏まで無垢のカナダ材が現しになった切妻屋根の建物とすることになりました。

2012年の年末にめでたく図書館が完成。棚の組み立てや約3万冊もの本の引っ越しには、地元の学生をはじめ総勢250人の支援者が正月休み返上で参加しました。2013年1月のオープンから2年後には、利用者数は震災前とほぼ同じになり、「新しい建物は木の雰囲気がとてもいい」「温かくて落ち着く」と、たくさんの声が寄せられています。



書架の安定を考え、高さを低めに抑えてあるため、屋根の下に広がる気持ちのいい空間を味わうことができる。



左:『赤毛のアン』のコーナー。この建物のイメージともなったグリーンゲイブルやカナダの自然なども紹介。



右:閲覧コーナーの中央には、カナダの関係企業から寄贈されたベレットストーブが置かれ、暖かい炎で利用者の心を和ませてくれる。



「以前の建物はコンクリート造で、書架もスチールだったので、まったく雰囲気が変わりました」と館長の柴崎さん。



メイプル館のテラスに置かれたテーブルやベンチもカナダの木材でつくられている。

PROJECT 02 まちに活気を再び

元の海辺で再開 復興を牽引し人々に元気を

Providing the spark for community revitalization.



YURIAGE PUBLIC MARKET

ゆりあげ港朝市 宮城県名取市関上

メイプル館の前に設置されたステージは地元のイベントにも活用されている。「ジャズイベントもいいですね。みんなが元気になれるような企画を立てて、まちを盛り上げていきたい」と代表理事の櫻井さん。



左：ゆりあげ港朝市のシンボリックな存在となったメイプル館。海側のテラスまで大きく弧を描く屋根は、大断面のカナダ材集成梁で支えられている。
右：10時になると鐘が鳴らされ、名物の競り市が始まる。ナンバー入りの団扇を手に、我先に声を上げるお客さんの姿を見ているだけでも楽しい。



「カナダの人には本当に感謝しています」と櫻井さん。支援の気持ちに応えるためにも、末永く地元住民に愛される朝市にしていきたい、と語る。



上左：海鮮丼の店、中華粥専門店、カフェが入ったメイプル館。買い物だけでなく「食」を楽しめる場をつくったことで、客層も広がり、団体客も増えた。

上右：旬のホタテ、年末ならではの腹子入り鮭の半身、昆布や鰹節、蒲鉾や珍味もあれば、地元特産のセリ鍋、精肉店、花屋までバラエティに富んでいる。

下：メイプル館の一画で防災の大切さを語る櫻井さん。震災の経験を活かし「減災」を呼びかけるために、震災学習のDVD上映・講話を実施している。

閑上のキッチン&ギャラリー
「メイプル館」
憩いの場として、
そして防災の発信場所として。

Yuriage's "Maple Pavilion" now serves
as a focal point for tourism and commerce.

宮城県名取市の閑上（ゆりあげ）地区。名取川の河口に広がる平野には、震災前、のどかなまちの風景がありました。津波は丘も山もない平坦な土地をどこまでも進み、海岸から数キロ先まで、ありとあらゆるものをなぎ倒していきました。今は、まちの復興を目指して、見渡す限りの盛り土の台地が広がっています。その先の沿岸部で、かつての賑わいをさらにパワーアップさせているのが40年の歴史を誇る「ゆりあげ港朝市」。毎週日曜や祝日もなると、特産の海産物を中心に、飲食店も含め約50店舗が軒を連ねる市場に、多い日で5000から7000人の買い物客が押し寄せます。

「震災の2週間後には、浸水を逃れたショッピングセンターの敷地を借りてすぐに朝市を復活させました。農家を回って野菜を集めたり、避難所から余ったパンを譲り受けたりして。個人商店はメーカーから直接卸してもらえず、仙台卸市場の会長さんに直談判に行ったりもしました」と語るのは、ゆりあげ港朝市協同組合の代表理事、櫻井広行さん。

その朝市の再建に大きな力となったのが「東北一カ

ナダ復興プロジェクト」による支援です。2013年の5月にはカナダの木材を活用した「メイプル館」がオープン、12月1日には復活グランドオープンを果たしました。メイプル館の計画に当たり、組合が特に希望したのは、魚にこだわる人だけでなく幅広い層に楽しんでもらえる飲食中心のスペースと、震災の話をする場所をつくることでした。

「いちばん重要なのは、震災の記憶を風化させないこと。ここでは津波の映像を常に流し、悲惨な話もあえてします。頭の引き出しにガツンと叩き込めば、いざという時にそれがパッと蘇り、すぐに行動できるでしょう」

カナダ材の太い梁に支えられたメイプル館は、家族連れやツアー客で常に満席状態。テラスの前には穏やかな広浦の水辺が広がります。「ここに堤防が築かれたら、見晴台のように海を眺められる木製デッキをつくらうと考えています。朝市のない平日にもたくさんの方が集まる場にしたい。そして、世代が変わっても震災のことを語り継いでいきたいと思っています」櫻井さんは笑顔でそう結びました。



ゆりあげ港朝市は、貞山（じょうざん）運河に連なる広浦に面している。津波に耐えて一部だけ残った防風林がメイプル館のプランニングにも生かされた。

DATA

ゆりあげ港朝市 メイプル館・水産棟（2棟）

所在地：宮城県名取市閑上 5-23-20

tel. 022-395-7211 <http://yuriageasaichi.com>

設計／施工：セルコホーム（株）

〈メイプル館〉	〈水産棟〉
竣工：2013年3月	竣工：2013年3月
工法・規模：	工法・規模：
在来軸組構法・平屋	ツーバイフォー工法・平屋
建築面積：493㎡	建築面積：285㎡
【おもな使用木材】	【おもな使用木材】
構造：ダグラス・ファー集成材／CSP合板	構造：SPF／カナダツガ／OSB
外壁／外部デッキ／内壁：ウエスタンレッドシダー	外壁：ウエスタンレッドシダー
床：オーク積層フローリング	

Interview

宮城県・名取市長 佐々木 一十郎

Isoo Sasaki, Mayor, Natori City, Miyagi Prefecture

支援を活かして、
“海辺のまち” 復活を目指す

Making the most of your support to revitalize our seaside town.



2004年より現職を勤める佐々木一十郎市長。とにかく復興、と元気なまちづくりに取り組む。

— 名取市の震災被害の概要についてお話いただけますか？

今回の震災で名取市内でお亡くなりになった方は、関連死も含めると940人ほど。そのほとんどが津波の犠牲であり、全国では未だに2500人ほどの方が行方不明となっています。同じ東北でも、リアス式海岸の三陸地方では、地形的に津波で受けるダメージが大きく、過去の被害の記録も記憶も残されているのですが、我々が暮らす仙台平野では、内陸部の奥まで平地が続いていることから、平安時代以降、大きな津波の記録が残っていませんでした。そのため、海から少し内陸に入った地域では、「名取は大丈夫」「ここまでは来ないだろう」という固定観念から、逃げ遅れた方、避難を呼びかけても逃げなかった方が多くいらしたのです。

— 復興には国内外からさまざまな支援があったかと思いますが、カナダから「どんぐり・アンみんなの図書室」「ゆりあげ港朝市」と2つの建築計画で支援を受けられたのは大きかったですね。

本当に感謝しています。この地域でもカナダ材の輸入は古くから盛んで、仙台の港にはたくさんのカナダ材が着いていました。また、名取市では、平成3年から人材育成と国際交流をテーマにカナダの中学校との相互交流、交換留学を続けてきました。今回は、被災地への呼びかけで「カナダー東北復興プロジェクト」の情報を得て取り組みを進めたわけですが、この復興プロジェクトにカナダ連邦政府やアルバータ州政府の他、交流先の中学校のあるブリティッシュ・コロンビア州政府も加わっているとのこと、これも何かの縁かな、とうれしく思っています。



上左：2013年1月18日、「どんぐり・アンみんなの図書室」の開館式にて。カナダ大使からは、記念品として建物の模型が贈呈された。

上右：図書室開館式と同日、ゆりあげ港朝市の地鎮祭が行われた。

下左：2013年5月4日、ゆりあげ港朝市が2年ぶりに元の場所で再開、「メイプル館」のオープニングセレモニーが行われた。開上の地酒で鏡割りし、喜びもひとしお。



— 支援を受ける施設として、図書館と朝市を選ばれた理由を教えてください。

名取市図書館は、もともと老朽化していた建物が震災で傷み、解体せざるを得ない状況でした。当時子どもの図書室は完成していたのですが、大人もみんなで使えるスペースが必要だったので、ぜひということでお願いしました。ゆりあげ港朝市は、震災直後、辺り一面流されてまだ何も無い時期に組合の皆さんの頑張りで再開されました。かつての閑上(ゆりあげ)は5000人規模のまちで、朝市も大変な賑わいだったのですが、その賑わいを取り戻したいという皆さんの熱い想いがとても強かった。閑上地区は移転するか、戻るかの岐路に立っていたのですが話し合いの結果、現地でもう一度新たなまちをつくっていかう、という方針が決まりました。この先朝市は、閑上の

復興やまちづくり全体に大きな牽引力を持つことになるだろうと。その頃はまだテントで営業していたのですが、衛生上、鮮魚を扱う売場の建物はつくらなくてはならないし、平日も含めて閑上を訪れる人が立ち寄れるセンター的な場所が必要だという話になり、水産棟2棟と「メイプル館」を実現していただきました。このメイプル館の存在は、「閑上は復活しますよ!」という1つのシンボルということです。

—メイプル館では、訪れた人に津波の被害を伝えることにも力が入られていますね。

市としても今回の震災の被害は記録として残り、二度と繰り返さないように、という思いがあります。メイプル館で上映されている津波の映像を見るとショックは大きいでしょう。でも、日本中どこでも自



上：2013年10月、カナダを訪れた際、カナダウッドのスタッフと。名取市民を代表して感謝を伝えた。

下：製材所も訪問。工場内部や貯木場など、木材の製造現場を見学した佐々木市長。

Donguri Anne
Public LibraryYuriage
Public Market

ORANDA JIMA HOUSE

オランダ島ハウス
船越小学校放課後児童クラブ

岩手県下閉伊郡山田町



勉強したり、食事をしたり、多目的ホールは自然光降り注ぐ明るい空間。イベント時には左の戸棚に家具を収納して広々と使える。



キッチン、トイレの先には、穴蔵のような図書室の入口が。「子どもは小さな場所に潜り込むのが好きでしょう」と建築家の提案でつくられた。

PROJECT 03 | 子どもたちの笑顔を育む

安心して過ごせる、 子どもたちの居場所

A place of safety and well being for our children.



山田湾を囲むように突き出す船越半島。その高台への道を進むと、元気に遊ぶ子どもたちの歓声が聞こえてきます。2014年に完成した「オランダ島ハウス 船越小学校放課後児童クラブ」は、木造の外壁の色もシルバーグレイに風合いを増し、周囲の景色にすっきり馴染んできました。

東日本大震災直後、甚大なる被害を受けた山田町を訪れ、津波で流されてしまった船越小学校放課後児童クラブの再建計画に乗り出したのは、オランダの企業・団体から成る財団法人オランダ島。オランダと山田町は、鎖国令が敷かれていた1643年、嵐を避けて山田湾に停泊したオランダ船プレスケン号を地元の人々が手厚くもてなしたことが由縁で、長く交流の歴史を重ねています。

カナダウッドはその再建プロジェクトに建材の提供というかたちで参加しました。オランダ人建築家の設計による明るく開放的なプランには「この場所ならではの光（故郷である山田町の光）をふんだんに採り入れることで、子どもたちの心を豊かに育みたい」という思いが込められています。ガラス張りの大きな開口部、間仕切りのない広々としたホールをつくるには木



左：エントランスには木製スロープが設置され、小さな子どもや車椅子の利用者にも優しいつくり。
右：外壁はウェスタンレッドシダー。経年変化で風合いを増す自然の木の質感を大事にしたシンプルな外観。運動場には人工芝が敷かれ、ケガを心配することなく思い切り身体を動かせる。



造がびったり。避難所や仮設住宅で窮屈な思いをしてきた子どもたちも、木の肌触りと日の光に包まれた建物で伸び伸び過ごすことができるようになりました。

現在、平日に放課後児童クラブを利用しているのは、船越小学校と大浦小学校の子どもたち20人ほど。夏休みや冬休みには終日利用することができ、多い時には40人くらいになる日もあります。「震災で公園や運動場も減ってしまいましたが、ここは人工芝が張ってあるので外で遊べますし、隣には民間のスポーツ施設があって、体育館で思い切り身体を動かすことができます」と山田町役場保健師の尾無敬さん。

震災後5年目となる今も、山地の多い船越地区では復興住宅の建設が難航していますが、オランダ島ハウスでは、暮らしの基盤が定まらずに不安を抱える親子の支えとなるよう活動に力を入れています。具体的には地域の精神科医や作業療法士、保育園と連携しながら、週2日は午前中に未就学児や赤ちゃんを対象としたサロンを開き、発達をうながす遊び方の講習、子育て相談、アレルギー対応のお菓子づくり教室などを行っています。



図書室の広さは1坪ほど。町の絵本読み聞かせボランティアが選んできた本が並ぶ。囲まれて静かに落ち着くスペースだ。



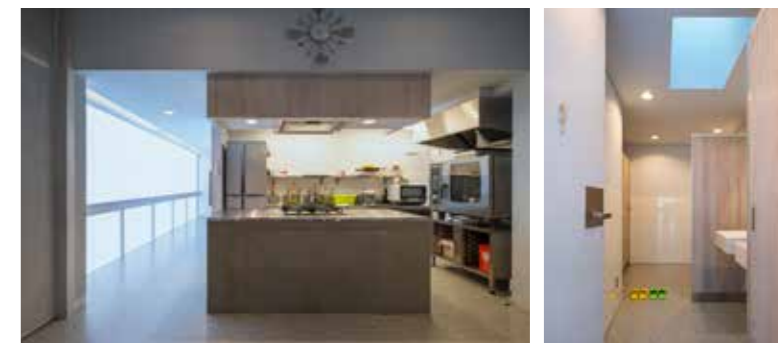
窓際には大人も子どもも座れる低いベンチが設けられている。デッキやベンチのデザインには、外で遊ぶ子を眺める大人の存在も意識されている。

DATA

オランダ島ハウス
船越小学校放課後児童クラブ
所在地：岩手県下閉伊郡山田町
竣工：2014年4月
工法・規模：在来軸組構法・平屋
建築面積：198㎡
設計：ヴァン・ダー・アーキテクトジャパン(株)
施工：(株)佐々木組

【おもな使用木材】

構造：ダグラス・ファー／カナダツガ／SPF
／OSB 外壁／外部デッキ／内壁：ウェスタンレッドシダー



左：スチームコンベクションオープンも企業からの寄付。お母さんたちを集めてアレルギー対応のお菓子づくり教室なども開かれる。

右：天窓や手前の廊下から光が差し込む明るいトイレ。無機質になりがちなスペースも木材がふんだんに使われて温かみのある雰囲気。



お昼寝に、体調の悪い子の休憩室に、赤ちゃんの授乳に活躍する和室。山田町では、震災後、公的な施設に和室の設置が義務づけられるようになった。

外で思い切り走ったり、こもって読書をしたり。たまにはケンカもするけれど、のびのび、笑顔で。

“Playing outside to our hearts’ content or finding a cozy place inside to read. Sometimes we quarrel, but mostly we are all smiles.”
Voice of Yamada-Machi children.



修復されたサン・ファン・パウティスタ（復元船）。国内で復元された最後で最大のガレオン船。2011年の震災と強風で破損・折損したが、カナダよりマスト材が寄贈されて2013年に修復された。

勇気と希望のシンボル
「サン・ファン・パウティスタ」
宮城県慶長使節船ミュージアム

The Sant Juan Bautista: our symbol of courage and hope.
MIYAGI SANT JUAN BAUTISTA MUSEUM



宮城県石巻湾に臨む「宮城県慶長使節船ミュージアム」。サン・ファン館という愛称で親しまれるこのミュージアムは、約400年前に慶長使節団を乗せて太平洋を2往復したガレオン船「サン・ファン・パウティスタ」の復元船を係留展示しています。その復元船は慶長使節らこの地の先人の偉業を後世に伝えようと1993年に完成しましたが、2011年の東日本大震災に伴い発生した津波が直撃して船は大きく浮き上がり、その際外板の一部を損傷。さらにその1か月半後の4月下旬、低気圧による強風で、船首側のフォアマストと中央のメインマストのトップマスト部分が折損してしまいました。津波でドック棟など他の施設も大きな被害を受け、休館を余儀なくされました。

修復が検討される中、幸いにも被災地支援のため宮城県を訪れていたカナダ・ブリティッシュ・コロ

ビア州政府高官が、修復用のマスト材として木材の支援を申し出、カナダウッドの仲介を経て復元船の所有者である宮城県へ木材の贈呈が決まりました。

翌年2012年6月には、カナダから中国を経由して、ダグラス・ファー4本とウェスタンレッドシダー1本のマスト材が到着。丸太の長さは、10.4mから大きいもので16.2mもありました。それらは、サン・ファン館に隣接する石巻市サン・ファン・パウティスタパークの敷地内で半年ほど乾燥された後、愛知県の加工業者の元に運ばれ、美しく加工されたマスト材として2013年春に戻ってきました。その後、設置に向けた工事が行われ、2013年の10月に無事修復工事が完了、11月に再開館が果たされました。カナダからはマスト以外にも、激励のメッセージや写真、民芸品なども届き、これまでなかったつながりも生まれました。



風光明媚な石巻湾に面した「宮城県慶長使節船ミュージアム」。乗船体験はもちろん、慶長使節についての資料展示室のある展望棟や、ステージを備えた石巻市サン・ファン・パウティスタパークがあり、石巻の歴史と自然に触れられる。
宮城県石巻市渡波字大森 30-2
Tel. 0225-24-2210
<http://www.santjuan.or.jp>

サン・ファン館の再開は、石巻市の復興にもつながるものとして多くの人が待ち望んでいたものでした。再開館から2日間で震災前の3か月分にあたる来館者が訪れました。現在は、慶長使節出帆400年事業が各国で行われた影響もあり、海外からの来館者も増えています。慶長使節の偉業を伝え、震災を乗り越えた「サン・ファン・パウティスタ」は、未来への勇気と希望のシンボルです。



上:2011年、マスト折損時。震災による津波の直撃を受け、外板の一部を損傷。さらにその後の低気圧による強風で無残にも折れてしまった船首側のフォアマストと中央のメインマストのトップマスト部分。

中:カナダの森で、マスト材として伐採された米松の大木。

下:2012年、カナダのウェスタンフォレストプロダクツ社から届いた丸太はダグラス・ファーが4本、ウェスタンレッドシダーが1本。

JERICHO SUPPORT CENTRE

障がい児者支援センター「エリコ」
福島県いわき市

PROJECT 04 | 新たな福祉の場づくり

地域に根ざした、
支援と交流の場に

A community rooted
in mutual support and exchange.

エリコでは週に何日か、地域の未就学の子どもと親を対象に、音と身体を使って心身の発達をうながすミュージックケアを行っている。



上左：深い軒に覆われたエントランス。障がいのある人を車で送迎するため、車寄せから玄関までのアプローチには一切の段差がない。

上右：南側のテラス。外部にも無垢のカナダ材が使われた。経年変化で味わいを増していく自然の風合いに温かみを感じる。

下左：大きな屋根に包まれた安心感のあるファサード。斜めに張られた板材が印象的な正面のゲートは、雨風から入口を守る役目も果たしている。

下右：建物の設計は、福祉施設を多く手がける地元の松崎設計。エリコで使用したカナダツガの150mm角材は、福島県の協同組合いわき材加工センターでJAS認定を取得した。



左：ホールに隣接したIT研修室。障がいが高くても働く場を得られるように、パソコンを活用した技術習得の場をつくることも当初からの目的だった。

右：ボランティアの人たちや職員のための休憩スペース。奥の和室は隣の部屋からも利用でき、赤ちゃん連れのお母さんたちにも好評だ。

DATA

障がい児者支援センター「エリコ」
所在地：福島県いわき市
竣工：2015年1月
工法・規模：在来軸組構法・平屋
建築面積：473㎡
設計：(株)松崎設計
施工：山木工業(株)

【おもな使用木材】

構造：カナダツガ/SPF/OSB
外壁/外部デッキ：ウェスタンレッドシダー
内壁：カナダツガ 床：メイプル

PROJECT 04

障がい児者支援センター「エリコ」 Jericho Support Centre



降り注ぐ光を見上げる吹抜け。大空間を支えるため平行弦トラス構造とし、荷重のかかる梁はカナダツガの150mm角材を2段重ねに、柱は5本を十文字に組んでいる。



障がい者の方がつくったカナダの国旗。

福祉避難所ともなる大空間。障がい者支援はもちろん、垣根を越えたコミュニケーションを。A large social welfare facility to help those with disabilities communicate beyond boundaries.

なだらかな丘の上に広がる「社会福祉法人 いわき福音協会」の敷地の一角で、障がいを持つ人の通所施設や子どものための福島整肢療護園などが点在する中に立つ障がい児者支援センター「エリコ」。終戦後、今こそ社会貢献をと強く願ったクリスチャンの医師が昭和25年に(財)いわき福音協会を設立し、昭和27年にはこの地に東北・北海道で初の肢体不自由児施設を建設しました。以来65年以上にわたり事業は展開され、現在はグループホームや保育所の運営など、地域に根ざした社会福祉法人として大きな期待が寄せられています。

「昨今は、障がいを持つ人も地域の中でサポートを受けながら暮らしていくことが推奨されるようになり、協会の施設からも多くの方が地域へ移りつつあります。震災の時、そうした人たちの生活を守っていくのが何より大変でした」と理事長の海野洋さん。

特に知的障がいや発達障がいを持っている人は動揺してパニックを起こしてしまうことも多く、一般の避難所や仮設住宅で対応することが難しいのが現状で

す。そこで協会は本部の建物の床に布団を敷き、行き先がなく困っている人たちが、地域で障がいの子を持つ家族を保護。他県で受け入れ先が決まるまで、職員と一緒に200人以上が雑魚寝でしのぎました。そんな折、飛び込んできたのがカナダ東北復興支援プロジェクトの朗報。協会では、災害時の障がい者のための福祉避難所として、また地域全体で使える交流の場として、あるいは障がい者の就労を支援するIT研修の場として、多目的に長く使える施設を要望し、障がい児者支援センター「エリコ」が実現されました。

広々とした大空間をつくるため、建物の構造には、安定した強度の高さを保証するJAS認定を取得したカナダツガの150mm角材が使用されています。「建設にあたり、カナダウッドの方が何度も現地に来ていただきました。完成してみると、木のぬくもりはやっぱりいいですね！子どもたちも走り回ったり、床に寝転がったり、のびのびと使っています」

これから特に力を入れて取り組みたいのは、地域

の学校に呼びかけて、児童・生徒、学生の福祉体験の機会を増やすこと。障がいの有無に関わらず垣根を越えて共に生きていくには、コミュニケーションの場を設け、互いを理解することが必要です。「2015年には、エリコを利用する人たちが、気軽に立ち寄れるカフェや野菜の即売所もオープンしました。今回の支援をきっかけに、カナダの福祉関連の機関との交流も行い、カナダ・北米の進んだ福祉を勉強したいと思っています」。海野さんは、そう夢を語りました。



「エリコが地域の方との交流の場として活用されることで、障がいのある人への共感と理解がさらに深まっていくでしょう」と理事長の海野洋さん。

An Unforgettable Journey

On a cold spring day in April of 2011 my colleagues and I from the Canada Wood Tokyo office embarked on an unforgettable journey. Wanting to learn first hand how we could help after the Great Eastern Japan Earthquake, we drove from Sendai along Highway 45 through the tsunami hit communities of Ishinomaki, Onagawa, Minami-Sanriku and Kesennuma along the Tohoku Coast. We were deeply moved by the raw devastation and suffering that we witnessed.

As we related our stories back to our government and industry stakeholders in Canada, the idea of pulling together to help our Japanese friends in Tohoku was born. While we could see that immediate humanitarian needs were being looked after, we sought to play a small role in the longer term revitalization of the region. Later in November of 2011, we hosted a mission of top government and forest industry officials to visit the Tohoku region. With this visit our delegation announced our resolve to provide humanitarian assistance under the auspices of the Canada Tohoku Reconstruction Project. And so Canadian forest industry executives and government officials raised together a \$4.5 million dollar humanitarian fund to help rebuild public facilities in Tohoku.

Canada Wood was then tasked with identifying and building public infrastructure projects that would serve to help revitalize tsunami devastated communities. Without a road map and in the face of many hurdles, we were initially humbled by the challenge. But as our team travelled many times to the Tohoku we were warmly received and inspired by the strength and resilience of people from all walks of life: from mayors and city officials, to fishermen, librarians, merchants, architects, builders, professors & students, housewives and children.

Nearly five years have elapsed since March 11, 2011. Working with our friends in the region we have completed an after school children's club in Yamada Machi, Iwate; a library and public market in Natori, Miyagi; and a support centre for the disabled in Iwaki, Fukushima. Canada is proud to have made a small contribution towards the revitalization of the Tohoku region. I would like to extend my heartfelt thanks to our generous government and industry contributors for their invaluable support and guidance, to our local project collaborators who persevered through many challenges to bring these projects to fruition and to our dedicated Canada Wood team. It is our hope that the warmth and beauty of these legacy structures are enjoyed as enduring symbols of friendship between Canada and Japan for many years to come.



Shawn Lawlor,
Canada Tohoku Reconstruction Project Manager &
Director— Japan Operations, COFI / Canada Wood

2011年4月、春とはいえまだ寒い日の東北視察は私とカナダウッド同僚の人生観を変えるほどのものでした。私達は東日本大震災の後、どのような支援ができるのかを考えるため実際に現場に行きました。仙台から国道45号を走り、石巻、女川、南三陸、気仙沼と津波の被害にあった場所を訪れ、被災地のすさまじさを目のあたりにして深い悲しみが込み上げてきました。

我々は東京に戻りカナダ政府、カナダの林産業界に東北の状況を報告しました。そして政府、林産業界一丸になって長年友好関係のある日本、東北を支援しようということになり、差し迫った人道的なニーズは対処されているようなので長期に渡るビジョンでの地域再生支援というテーマで取り組むことにしました。2011年11月後半に、カナダ連邦政府、プリティッシュ・コロンビア州政府、アルバータ州政府の高官達、また林産業界の代表者達との東北訪問で「カナダ—東北復興プロジェクト」として支援を提供するという我々の決意を発表し、東北地方での公共施設の再建のために約450万カナダドルの支援金を拠出しました。

カナダウッドは「カナダ東北復興プロジェクト」を推進する役割を担いました。いろいろなハードルに直面し最初はこの挑戦が不安になりましたがチームで何度も東北に行く度に温かく受け入れてもらい、また市長、市役所職員の方、漁業市場の方、図書館員の方、学生と先生、子どもとお母さん、携わった全ての方々立ち直る力の強さに感銘を受けました。

2011年3月11日から約5年が経ちました。私達は地域の方々とともに岩手県山田町に放課後児童クラブ、宮城県名取市に図書館とゆりあげ港市場、福島県いわき市に障がい児者支援センターを完成させました。これらの施設が少しでも地域の皆様の復興のお役に立てば嬉しく思います。

木造建築ならではの美しいデザインと温もりのある建築物をカナダと日本の友好が永続するシンボルとしてこの先長く使って頂きたいと存じます。

プロジェクト実現のために色々なチャレンジを乗り越えて下さった地域の協力者の方々及びカナダ政府、林産業界、またカナダウッドチームに心から感謝致します。

カナダ東北復興プロジェクト
カナダ林産業審議会 / カナダウッド
日本代表
ショーン・ローラー



2012年2月、陸前高田にて。津波に耐え、たった一本残った奇跡の一本松の前で。

In Appreciation of Our Project Funders:

The Canada Wood Group extends our thanks to the following donors for their generous contributions to the Canada Tohoku Reconstruction Project:

The Government of Canada

The Government of British Columbia

The Government of Alberta

Ainsworth Engineered Canada LP (Norbord Inc.)

Ardeu Wood Products Ltd.

Canadian Forest Products Ltd. (Canfor)

Hampton Affiliates

Interex Forest Products Ltd.

Interfor Corporation

Sinclar Group Forest Products Ltd.

Taiga Building Products Ltd.

The Teal Jones Group

TimberWest Forest Corporation

Western Forest Products Inc.

FRIENDSHIP at a Time of Need

コミュニティの再生と未来のために
カナダ—東北復興プロジェクト

2016年3月発行

発行：カナダウッド

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-27

巴町アネックス2号館9階

tel 03-5401-0531

<http://www.canadawood.jp>

企画 木藤阿由子 (エクスマレッジ)

編集 内田みえ

文 長町美和子 (p.10-23, p.26-29)、内田みえ (p.24-25)

撮影 木田勝久 (p.2-3 (人物)、p.10-18, p.20-23, p.26-29)

デザイン HORIdesign 堀 恭子



@カナダウッド 2016

※本誌内容の一切の無断転載・複写を禁じます。